

令和2年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部
鹿児島県知事 最優秀賞

「 れいわ2年7月ごう雨 」

鹿児島県 曾於市立財部小学校 2年 ^{かみあつまり}上集 ^{れんと}蓮仁

ゴォゴォゴォー、ピカッ、ゴロゴロドッカーン。そとはまっくら、大雨やつよい風の音、かみなりの光と大きな音にびっくりした7月。テレビでくま本けんやぼくがすむかごしまけんのニュースがながれました。土しゃくずれがおきて、どうろが通れなくなったり、川の水がちゃ色にごってあふれ出して、はしがこわれたり、どろ水がいえの中に入ったりしていました。ぼくは、こわくなりました。ぼくのいえやすんでいる町がこんなことになったらどうしようと思いました。ニュースでながれたところにすむ人たちは、どんなにこわい思いをしたらろうと思いました。そんなことを思いながらニュースを見ていたら、おとうさんがかえってきました。

ぼくのおとうさんは、どうろやダムをつくるしごとをしています。土しゃくずれで山がくずれたり、川のでいぼうがくずれたりしたときに、大きなきかいにのって土しゃをはこんだりしています。おとうさんは、大雨の中でも晴れてとてもあつい中でも、まい日よるおそくまであせをかい、ぼくたちかぞくや町の人たちのために一生けんめいはたらいています。川の中や土しゃくずれのげんばでは、とてもあぶなくて、大じょうぶかなとおとうさんのことが心ばいになります。でも、みんなのためにがんばるおとうさんは、本とうにかっこいいです。

土しゃくずれのニュースを見たとき、おとうさんがいつものっているような大きなきかいがうごいていました。あの大きなきかいにのって土しゃくずれをなおしている人たちも、きつとかぞくや町の人たちのために一生けんめいはたらいているんだと思いました。そして、また土しゃくずれがおこらないように、なおしているんだと思いました。おとうさんが、

「山がくずれないように山をゆるやかにしたり、コンクリートをうってかべをつくったり、川の水があふれないように川をひろげて、ていぼうをつくったりすると土しゃくずれがぼうしされるんだよ。」

と教えてくれました。それを聞いてぼくは、車にのっているときに山や川を見てみました。すると山にコンクリートのかべがあったり、川にはていぼうがあったり、気をつけて見るとたくさんありました。これがあることで、土しゃくずれがぼうしされることがわかりました。このかべやていぼうをつくるしごとをしているおとうさんはすごいなと思いました。

これからも、大雨がふって土しゃくずれやさいがいがおきることがあるかもしれないけれど、それをふせぐためにまい日おしごとをがんばっている人たちがいることをわすれてはいけないと思いました。